

男女がともに 輝くために

共に輝くみほの会
—美浦村女性行政推進協議会—

問合せ 企画財政課
☎029-885-0340(内)208



先日、NHKの「チコちゃんに叱られる」という番組で、何故、男は青、女は赤と区別されるようになったか、その理由を解説してくれていました。1964年の東京オリンピックが開催される際、男子トイレと女子トイレを外国の方にも分かるように色分けした事がきっかけでした。戦前も戦後も男女を色で分ける感覚はなかったのです。私はこれにはとても驚きました。孔子曰く、「男女7歳にして席を同じうせず」と学習していた戦前から、あったものだと思っ

18世紀西欧では、染色技術が現代ほど発達しておらず、染色された高価な服は上流社会の人々にしか使われませんでした。一方、庶民の人々はキナリ、いわゆる生地そのものの色、あるいはくすんだ黒っぽい色の服を身につけていました。鮮やかな赤に染色されたマントや軍服は、上流社会の人達にとっては富と権力を誇示するものでした。そこにある転機が訪れました。18世紀後半から19世紀前半に起こった産業革命です。庶民の生活レベルは向上し、経済力とプライドを身につけた人々は、貴族たちへの反発心から貴族が好んだ真逆の色、青や黒系に染色した服を着るようになり、対して女性は、明るい色、赤やピンクを好んで身につけるようになったそうです。ここから男は青系の色、女は赤系の明るい色というイメージが植えられたのだと思われ

男女共同参画社会について 一緒に学んでみませんか？

美浦村女性行政推進協議会（共に輝くみほの会）では、活動を共にできる会員を募集しています。（男性の入会も可）

■問合せ 企画財政課

かつて小学生のランドセルや絵の具ケースは男の子は黒か青、女の子は赤色でした。今は女の子もシックな茶色や美しい水色が多く、自由で素晴らしいな、と思います。男の赤ちゃんがピンク色の服を着ていても可愛いですし、青いスーツが似合う素敵な女性がたくさんいます。たかが「色」と思われがちですが、色はとても影響力のあるものです。大人も子どももいろんな好きな色、美しい色を大いに取り入れて、楽しい生活を送って欲しいと思います。

みほ文芸

正調俚謡 日和吟社題「満・足」一字以上詠み込み有季無季随意
満期迎えた預金を抱いて一夜限りの添い寝する
力不足とわかつているが何時か味ある俚謡が夢
祈願満足八十路の坂も越えて咲かせる長寿花
腕を絡めて杖つく妻と足を合わせて田んぼ道
空に満月肩肘張らず楽に生きると笑つてる
円くやるには味噌汁椀に嫁御見ぬうち茶湯を足す
友と並んで若き日惚ぶ足湯、薫風、癒し旅
夫と二人で足湯につかり語る老後の旅樂し
速いテンポにきれきれダンス足がもつれる練習日
バラに囲まれ会話も弾み香り満喫夫婦連れ
豆腐一丁晩酌だけどそれで満足妻の酌
父と楽しく手繋ぎ散歩夢で心が満たされる
花に囲まれ幸せ満ちて午後ひとときティータイム
夜半の川波月影満ちて偲ぶ故郷逝ける人
何が不満か疑いかけていつも西瓜は叩かれる
散歩しながら足腰鍛え命の限り生きぬこう
足に包帯頑張り通し掴む大関栃ノ心

六月の俳句（題 当季雑詠）
牛蛙里の空気を重たくす
万緑やひとりぼっちのサンドイッチ
照れながら息子抱えるカーネーション
夏映えや着こなし華やぐケアの友
あやめ祭り佐原囃子を風に乗せ
想ひ出を捨てるつもり（衣更）
ひたすらにただひたすらに草を引く
朝焼けや富士迫りくる露天風呂
母の日や世代を語る短冊に
先頭が登れば這ひし蟻の道
古書店の手に取る太宰の忌の近し
大リーグ投打の若き武者修行
賑やかにあじさい電車で鎌倉へ

長谷川悦子
高橋一步
小園江久美
山崎泰弘
石戸律華
山崎笑子
沼寄朋香
関根秀子
増尾青蓮
上野八千代
飯塚筑風
小池きよし
伊藤葉子
山口老路
篠原美千代
木村幸子
田島草実
（五十音順）
青野安佐子
石毛恵美子
海道民子
木澤はしめ
高柳幸子
田島早苗
中島輝子
長田敏笑
松葉よしひ
松本秀子
宮崎さみ枝
宮美也香
矢原はつひ